

安全データシート

5-クロロ-N-{2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフェノキシ]エチル}-6-エチルピ
リミジン-4-アミン

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 5-クロロ-N-{2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフェノキシ]エチル}-6-エチルピリミジン-4-アミン
CB番号	: CB7118320
CAS	: 105779-78-0
同義語	: 5-クロロ-N-{2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフェノキシ]エチル}-6-エチルピリミジン-4-アミン

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 農薬 (殺虫剤) (NITE-CHRIPより引用)
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

(物化危険性及び健康有害性)

R2.3.13、政府向けGHS分類ガイダンス (H25年度改訂版 (ver1.1)) を使用

JIS Z7252:2019準拠 (GHS改訂6版を使用)

物理化学的危険性

-

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) 区分3

急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト) 区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2B

皮膚感受性 区分1

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1 (血液系、腎臓)

分類実施日

(環境有害性)

H18年度、GHS分類マニュアル (H18.2.10版) (R1年度、分類実施中)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分1

水生環境有害性(長期間) 区分1

GHSラベル要素

絵表示

GHS06	GHS09
-------	-------

注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有毒 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 強い眼刺激 吸入すると生命に危険 長期にわたる、又は反復ばく露による血液系、腎臓の障害 水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。取扱後はよく手を洗うこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。環境への放出を避けること。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。注)【】の文言は、化学品の使用時に関する追加的な情報が、安全な使用のために十分であろう換気のタイプを説明している場合に使用できます。

応急措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。皮膚に付着した場合:多量の水/石けん(鹸)で洗うこと。皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。特別な処置が緊急に必要である(このラベルの・・・を見よ)。注)"..."は、ラベルに解毒剤等中毒時の情報提供を受けるための連絡先などが記載されている場合のものです。ラベル作成時には、"..."を適切に置き換えてください。漏出物を回収すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

情報なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: 5-クロロ-N-{2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフェノキシ]エチル}-6-エチルピリミジン-4-アミン
別名	: ピリミジフェン
濃度又は濃度範囲	: 情報なし
分子式(分子量)	: C ₂₀ H ₂₈ ClN ₃ O ₂ (377.92)
CAS番号	: 105779-78-0

官報公示整理番号 : 情報なし

(官報公示)整理番号 : 情報なし

(分類法)与する不純物及び安定化添加 : 情報なし

物

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水/石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

情報なし

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

情報なし

使ってはならない消火剤

情報なし

特有の危険有害性

情報なし

特有の消火方法

情報なし

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

注【】の文言は、化学品の使用時に関する追加的な情報が、安全な使用のために十分であろう換気の種類を説明している場合に使用できません。

接触回避

「10. 安全性及び反応性」を参照。

衛生対策

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

施錠して保管すること(毒劇物)。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

安全な容器包装材料

国連危険物輸送勧告で規定された容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

日本産衛学会 (2019年度版)

未設定

許容濃度

ACGIH (2019年版)

未設定

設備対策

粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用する。注)【】の文言は、化学品の使用時に関する追加的な情報が、安全な使用のために十分である換気の種類を説明している場合に使用できます。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

物理状態 固体 (20℃、1気圧) (GHS判定)

色 白色

臭い データなし

69.4~70.9℃

データなし

データなし

該当しない

該当しない

該当しない

データなし

データなし

該当しない

水:0.00217 g/L (25°C)

データなし

1.2x10⁻⁹ mPa (25°C)

1.22 (20°C)

該当しない

データなし

融点/凝固点

69.4~70.9°C

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

該当しない

引火点

該当しない

自然発火点

該当しない

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

該当しない

溶解度

水:0.00217 g/L (25°C)

n-オクタノール/水分配係数

データなし

蒸気圧

1.2x10⁻⁹ mPa (25°C)

密度及び/又は相対密度

1.22 (20°C)

相対ガス密度

該当しない

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

情報なし

危険有害反応可能性

情報なし

避けるべき条件

情報なし

混触危険物質

情報なし

危険有害な分解生成物

情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

【分類根拠】

(1)、(2)より、区分3とした。

【根拠データ】

(1) ラットのLD50: 雄: 148 mg/kg、雌: 115 mg/kg (食品安全委員会 農薬評価書 (2013)、農業工業会「日本農薬学会誌」第24巻第2号 (1999))

(2) ラットのLD50: 115~148 mg/kg (農業工業会「食品衛生研究」vol.48 No.11 (1998))

経皮

【分類根拠】

(1)より、区分に該当しない。

【根拠データ】

(1) ラットのLD50: > 2,000 mg/kg (食品安全委員会 農薬評価書 (2013)、農業工業会「日本農薬学会誌」第24巻第2号 (1999))

吸入: ガス

【分類根拠】

GHSの定義における固体であり、ガイダンスでは分類対象外に相当し、区分に該当しない。

吸入: 蒸気

【分類根拠】

データ不足のため分類できない。

吸入: 粉じん及びミスト

【分類根拠】

(1) より、区分2とした。

【根拠データ】

(1) ラットのLC50 (4時間): 雄: 0.069 mg/L、雌: 0.076 mg/L (食品安全委員会 農薬評価書 (2013))

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

【分類根拠】

(1)、(2) より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) ウサギを用いた皮膚刺激性試験において刺激性はみられなかった (食品安全委員会 農薬評価書 (2013))。

(2) 本物質 (0.5 g) をウサギに適用した皮膚刺激性試験で刺激性はみられなかった (農業工業会「日本農薬学会誌」第24巻第2号 (1999))。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

【分類根拠】

(1)、(2) より、区分2Bとした。

【根拠データ】

(1) ウサギを用いた眼刺激性試験において軽度の刺激性が認められた (食品安全委員会 農薬評価書 (2013))。

(2) 本物質 (46 mg) をウサギの眼に適用した眼刺激性試験で一過性の結膜の炎症がみられたが、3日以内に回復した (農業工業会「日本農薬学会誌」第24巻第2号 (1999))。

呼吸器感作性

【分類根拠】

データ不足のため、分類できない。

皮膚感作性

【分類根拠】

(1) より、区分1とした。

【根拠データ】

(1) モルモットを用いた皮膚感作性試験 (マキシマイゼーション法) において中等度の感作性が認められた (食品安全委員会 農薬評価書 (2013))。

【参考データ等】

(2) モルモットを用いた皮膚感作性試験 (ビューラー法) において感作性は認められなかった (農業工業会「日本農薬学会誌」第24巻第2号 (1999)、食品安全委員会 農薬評価書 (2013))。

生殖細胞変異原性

【分類根拠】

(1)、(2)より、*in vivo*、*in vitro*試験を含む標準的組合せ試験でいずれも陰性であったことから、ガイドランスにおける分類できないに相当し、区分に該当しない。

【根拠データ】

(1) *in vivo*では、マウスを用いた小核試験で陰性の報告がある(食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

(2) *in vitro*では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で陰性の報告がある(農業工業会「日本農薬学会誌」第24巻第2号(1999)、食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

発がん性

【分類根拠】

国内外の分類機関による既存分類はない。利用可能なヒトを対象とした報告はない。(1)、(2)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) ラットに本物質を2年間混餌投与した慢性毒性/発がん性併合試験で、100 ppm投与群の雄で副腎の良性褐色細胞腫の有意な増加が認められた。雌では投与群においても副腎褐色細胞腫の発生頻度は少なく、対照群との差はみられなかった(食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

(2) マウスに本物質を86週間混餌投与した発がん性試験で、腫瘍性病変の発生頻度の増加は認められなかった(食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

生殖毒性

【分類根拠】

(1)~(3)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) ラットを用いた混餌投与による2世代生殖毒性試験において、P及びF1親動物で体重増加抑制、摂餌量減少、肝重量増加、F1親動物で精子形成低下がみられたが生殖影響はみられていない。親動物毒性がみられると同じ用量でF1及びF2児動物に体重増加抑制、低体重、F1児動物に包皮分離遅延、陰開口遅延がみられた(食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

(2) 雌ラットの妊娠6~15日に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物毒性(体重増加抑制、摂餌量減少)がみられる用量で胎児に低体重、骨化遅延(胸骨分節)、骨格変異(第14肋骨)がみられた(食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

(3) 雌ウサギの妊娠6~19日に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物毒性(切迫屠殺(1/15~16例)、体重増加抑制、摂餌量減少)がみられる用量で胎児に骨化遅延(手根骨、中手骨、指節骨)がみられた(食品安全委員会 農薬評価書(2013))。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

魚類(コイ)の96時間LC50 = 0.00211mg/L(農薬登録申請資料(2005))から、区分1とした。

水生環境有害性(長期間)

急性毒性が区分1、急速分解性がないと推定され(BIOWIN)、生物蓄積性があると推定される(log Kow = 4.84 (PHYSPROP Database (2005)))ことから、区分1とした。

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

2761

国連品名

ORGANOCHLORINE PESTICIDE, SOLID, TOXIC

国連危険有害性クラス

6.1

副次危険

-

容器等級

II

海洋汚染物質

該当する

MARPOL73/78附属書II及び**IBC**コードによるばら積み輸送される液体物質

該当しない

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

道路法、毒物及び劇物取締法の規定に従う。

特別な安全上の対策

道路法、毒物及び劇物取締法の規定によるイエローカード携行の対象物

その他 (一般的) 注意

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号*

151

15. 適用法令

労働安全衛生法

該当しない

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)

該当しない

毒物及び劇物取締法

劇物(指定令第2条) 【28の5 5-クロロ-N-[2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフエノキシ]エチル]-6-エチルピリミジン-4-アミン及びこれを含有する製剤】

道路法

車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2) 【3 5-クロロ-N-[2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフエノキシ]エチル]-6-エチルピリミジン-4-アミン及びこれを含有する製剤】

航空法

毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1) 【【国連番号】2761 殺虫殺菌剤(有機塩素系)(固体)(毒性のもの)】

船舶安全法

毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1) 【【国連番号】2761 有機塩素系殺虫殺菌剤類(固体)(毒性のもの)】

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法(化審法)<https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)<https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。